

白州郷牧場グループの忘年会・新年会 賑やかに開催！



一昨年は石和温泉に繰り出しての忘年会でした。美味しい食事と温泉で一年の疲れも吹き飛ばしましたが、年明け、大雪に見舞われ、大変な一年となりました。

被災当初は「果たして復興できるのか」というのが正直な気持ちでしたが、その後、多くの皆様のお力添えを頂き、再建を進めて参りました。そして、どうにか年末まで迎り着き、新しい年を迎えることができました。

再建途上である本年度の忘年会・新年会は、活動の拠点である白州町横手の直営店・おっぱに亭こっこにて開催致しました。牧場再建に力をあわせた多くのスタッフや仲間が集まってもらいたいと考えたからです。食事はスタッフの手作り主体、本当にささやかな会ではありましたが、お互いの一年の労をねぎらい、親交を温め、新しい年への抱負や期待を語り合う、素敵な会になりました。

耕作・養鶏、加工場、お店、事務、共同出荷する生産者の方を加えると50名近い大所帯。近くにいながら一

堂に会することがほとんどない仲間たちですが、自然の恵みを最大限に活かして余計なものを加えない農産物を作り、加工し、届ける、という活動に関わる仲間たち。それぞれの持ち場で役割を果たしていることをお互いに知るよい機会となりました。

経営の存続も危ぶまれる事態となった雪害でしたが、自らの足元を改めて見つめ直す、そんなきっかけも与えてくれたのだと思います。「雪降って地固まる」そう感じることで忘年会・新年会でありました。これからは、定期的に仲間たちが一堂に会する機会を作っていこうと思っています。

牧場のスタッフやパートの皆さんの他、忘年会には仲間の生産者の皆さんにもご参加頂きました。いずれの会も30名前後の参加者で、ささやかながらも大変賑やかに開催することができました。

(小齊 太郎)

キララ春の学校の募集開始！

白州の春はいのちの気配に満ちています。

日程は、2015年3月30日～4月3日まで！

詳しくは、ホームページをご参照ください。

白州郷牧場ホームページ <http://www.hakusyu.jp>

 www.facebook.com/hakusyugou.bokujo

Letter From Hakusyu 「書を読み、自然に親しみ、勤務にいそしむ」

白州だより

白州郷牧場から早春のおたよりをお届けします！ <http://www.hakusyu.jp/> info@hakusyu.jp

2015年2月19日
二十四節気 雨水
発行 白州郷牧場
山梨県北杜市白州町横手 2259
TEL : 0551-35-4520
FAX : 0551-35-0132

明けましておめでとうございます

白州郷牧場グループ代表 椎名 盛男

もう、あの大雪害から1年になろうとしています。北の国の方は大雪が続き、老人たちが雪の事故でなくなる悲報が相次いでいます。原因はCO₂とこのことです。これをなんとかするというのは、今の文明にあってはほぼ不可能でしょう。

イスラム国では2人の日本人が殺されようとしています。「何用あって砂漠まで行くのか」さっぱりわかりません。これからも日本人の殺害は続き、その内、日常となるに違いありません。国民も政府ももうすぐ何の関心ももたず、「他人ごと」として処理していくのでしょうか。ちょっと調べてみると、あの国のあたりは農業が80%くらい壊滅しているし、穀物は60%もとれない。テロの本当の原因は、食糧難とCO₂とアメリカ派の空爆だろうが、これもどうしようもない。日本人の死が当たり前になり、日本人が最後の一人になっても世界に対して無関心でいくのだろう。それが今の日本人だ。

あの大雪害の際、多くの方がボランティアでかけつけてくれたし、義援金が寄せられた。心からお礼を申し上げたい。おかげで90%ほど回復しました。他県が10～20%くらいの回復ですが、白州郷牧場は2月中にはすべて完了する予定です。

私どもはあらためて人間は金や物でなく人間は人間

がたよりなんだと心底感じとることができました。

私は今年、安倍と黒田のやって来たことをみていて金融の大恐慌がくると思っていましたが、EUの大金融緩和をみて、年内の大崩壊はないと思いました。紙幣を刷りまくって一部(1%の人)にバラ撒く、というやり方は、結局収縮するしかないと思っています。日本人の生活も近いうちにパタリといくでしょう。

本当の豊かさとは何なのか。それが問われるのもそんなに時間はかからないでしょう。

資本主義はひどいものだ。たった1%の人に富が集中するとは異常すぎる。彼らの強欲はひどすぎると思ってきました。しかし古代国家の時代からすると、日本の戦後の民主主義が異常で、世界は1～2%の人が富を独占して来たことがわかり、何も今始まったことでないことがわかりました。そして、別な視点を持つようになりました。セレブな彼らは、普通の人間でなく、サイコパスなコレクターと見るようになりました。加えて言えば、彼らは人類誕生の時からもう存在していたと。そして、人間は皆、遺伝子の中に持っているのだと。

学あれども欲望はいかんともしがたい。と漢の武帝を嘆かせたように、やはりいかんともしがたいのだろう。戦後史で言えば、知識人の大衆化ほど人の世に惨事をもたらしたものはないにちがいない。

それもこれも、団カイの世代だ。あ～合掌。

2015.1.24



キララ冬の学校 2015



年明けの1月4日から7日まで、キララ冬の学校を開催しました。

♪ 初詣とお祓い

甲斐駒ヶ岳の麓、甲斐駒神社へ初詣に行ってきました。恒例となっているお祓いもしていただき、今年一年間の無病息災をみんなで祈願してきました。日本人は無宗教といわれますが、やっぱり白くそびえる甲斐駒ヶ岳を眺めていると、山の神様が身近に思えてきます。やんちゃな子供たちもお祓いの時間は、神妙な面持ちでいました。

♪ ほうとうづくり

山梨県の郷土料理、ほうとうをつくりました。村のおばあさん、守屋さんに来ていただき、小麦粉をこねて麺をつくることから教えていただきました。麺をこねる、野菜を切る、火を起こして

煮る、などなど、子供たちも一生懸命にやっていました。ほうとうというとお米が貴重だった時代にその代替品として食べられていた、というイメージが強いのですが、こうして子供たちも家事に参加できる、大鍋で大人数の食をまかなうことができる、ということが郷土食として根付いた理由なのかもしれません。

♪ 高橋先生の物理のお話

都内の高校で教師を務める高橋先生が、子供たちに物理の世界についてお話してくれました。「慣性の法則」、「運動の法則」、「作用・反作用」など、大人たちにとっては少し懐かしくなる話から、ある日地球の地軸がひっくり返るといふとんでもない学説の話まで。子どもたちよりもスタッフたちが盛り上がりすぎてしまいました。

♪ 落ち葉あつめ

今年は雪が少なく、雪遊びを期待していた子供たちにとっては残念でしたが、裏山に落ち葉がたくさん積もっていたので、落ち葉あつめをやりました。レーキや熊手を使って落ち葉を集めるのも、都会の子供たちにとっては新鮮な遊びになるようです。広葉樹の葉は集めて鶏舎の床材になります。笹の葉や木の枝はその場でたき火の燃料に。やっぱり男の子たちは火遊びが大好きです。

♪ 七草を摘みに行こう～七草粥

冬の学校の最終日は1月7日ということで七草粥を作ります。ハウス内でナズナやハコベが自生しているので、その収穫をみんなでやりました。ちなみにこのハウス、昨年大雪で倒壊、その後再建させたものです。こうして新年を迎えられるのも、たくさんの方のご支援があればこそです。中は春のように暖かく、たくさんの野草が採れました。
(内藤 光)



キララ冬の学校日程

1月4日 (日)	1月5日 (月)	1月6日 (火)	1月7日 (水)
	6:30 起床	6:30 起床	6:30 起床
	朝の散策	朝の散策	朝の散策
	朝食～朝の散策で集めた卵でたまごかけごはん	朝食～朝の散策で集めた卵でたまごかけごはん	朝食～朝の散策で集めた卵でたまごかけごはん
		落ち葉集めと焚き火	片付け・荷造り・作文
	ほうとうづくり	みそと甘酒づくり	昼食～七草がゆ
		昼食～カレーうどん	閉校式
開校式	もちつき	七草とり	
初詣～甲斐駒ヶ岳神社	落ち葉集めと焚き火	高橋先生講座～物理の話	
おふろ	おふろ	おふろ	
夕食～カレー	夕食～お雑煮	夕食～親子丼	
自己紹介	夜の焚き火	カードゲームや読書	

書評
「マネー資本主義
～暴走から崩壊への深層」
新潮文庫
NHKスペシャル取材班 著



本書は、リーマンショックに端を発した金融危機を取材した、NHKスペシャル「マネー資本主義」シリーズを書籍化したものだ。金融という世界がどのような思惑によって動いているのか、ということの一端が見えてくる。以下、簡単に要約する。

金融とはそもそもお金を融通することにある。お金の貸し借りを促し経済の流動化を図る。社会・経済の脇役に徹することが金融の王道だったのであり、投資銀行の役割も企業の株や債券の発行を引き受けたり、市場での売買を仲介したりして、その手数料を収益としてきた。そうした金融業界のあり方が1970年代後半から一変した。変革の先陣を切ったのが投資銀行の老舗、ソロモン・ブラザーズだった。住宅ローンを証券化して売り出したのだ。

住宅ローンをどのように商品化したのか。まず数千、数万件という住宅ローンを買い集めて一つの塊としてまとめあげる。それを小口の債券としてA債券、B債券、C債券、D債券と仕分けていく。その仕分けの際に、ある決まりを設けることによって、リスクの集中度合を振り分ける。濁った水を浄化するとき不純物をタンクの底に沈殿させるように、リスクを「沈殿」させることができる

という。リスクが低く設定されたA債券やB債券は安全志向の投資家に低めの利回りで販売される。逆に、リスクを凝縮させたC債券、D債券といったものは利回りが高くされ、ハイリスク・ハイリターンを求める投資家に販売された。

何が重要かという、投資銀行が経済の補佐役であることをやめて、自己勘定ビジネスはじめたことが大きかった。ソロモンの手法に同業他社も一斉に追随し、人材の引き抜き合戦が繰り広げられた。高額報酬を保証しなければ、優秀な人材はノウハウや顧客ごと他社に引き抜かれてしまう。ソロモンの凋落はまさにそれによって引き起こされたという。変わって業界を牽引したのが世界規模のビジネスを展開したゴールドマンサックスだった。IT技術の発展が金融市場をグローバル化させていた。

レバレッジという手法によって、金融業界は競争を激化させながら肥大化していった。レバレッジとはテコ入れを意味し、要するに自前の資金の何倍もの金を借り入れて、それを投資にあてることをいう。元手を増やすことによって当れば大儲けとなるのだが、外せば大損害となる。80年代にはすでに、金融資産が実体経済のそれを2倍近くまで上回っていた。

リーマンショックが起きた背景に「CDO」という金融商品がある。債務担保証券のことで、複数の公社債や住宅などのローンなど様々な債券が詰めこまれたものである。この商品が問題となったのは、競争が激化していく過程で中身もリスクも不確実なものになっていたからだ。リスクを把握することよりも、ローンを買い集めて新たな商品をつくることだけに情熱は傾けられた。ここに、サブプライムローンが大量に流れ込んだ、というのがリーマンショックの顛末である。支払能力が疑わしい人間にローンを組ませるということが横行した。住宅価格が上がり続けるうちはそれでよかった。貸し倒れが生じて、家を差し押さえて転売すればよかった。しかし、2006年に住宅価格が下落に転じるとサブプライムローンは一気に焦げ付きはじめたのだ。中身の見えない福袋が、ある日爆発したのだ。

本書は他にも、住宅バブルを形成した超金余りの状況がどのように形成されたのか、日米の年金基金がどのような過程のなかでリーマンショックによる被害を受けたのか、金融工学の担い手といったテーマに踏み込んでいる。取材記なので論の立て方などに異論もあると思うが、金融市場が暴走する過程が肌感覚で伝わってくる。資本主義が強欲だけでなく、不安によって突き動かされているようにも見えてくる。

(内藤 光)



ガーデン・ポタジェを終えて

昨年、礒田有治氏のご指導の元はじまった「白州 ガーデン・ポタジェ」。「美しい農園」をつくる…ワクワクする取り組みに参加させていただきました。

計画が立ち上がったのが昨年1月、直後に雪害にみまわれ、中止かと思われましたが、続行が決まり、「とりあえず責任者はあなた」とのお達しをいただき(汗)…不安でいっぱいのスタートでした。すべてが手探りで、人手も時間も少ない状態でしたが、仕事のひとつひとつに発見と感動がありました。コンパニオンプランツや追肥の効果、畝たてなど畑づくりから、種まき、育苗、定植、草取りに至るまで“丁寧に仕事をする”ことの意味、“見られている”という意識…実際に手足を動かして、目で見て体験できたことは財産です。

先日、とある場所でもかまどで炊いたご飯をごちそうになりました。いっしょにいただいたお味噌汁やおかずも、自分たちでつくった野菜やおみそが材料。日本古来のやり方で、素性のはっきりした食材での手づくり料理。薪を燃して直火を使うかまどは火の調節が難しく、毎回同じように炊きあがる訳ではないそうですが、上手くいった時は本当に美味しく、おこげもまた楽しみ。薪に火をつけるのも楽しい！業種は違えど、白州郷牧場と同じ理念でものづくりやビジネスを展開しているところはどんどん増

えていて、それに対して一票を投じたいというお客さんもまた確実に増えています。ポタジェは、そういった人々のアンテナに向けて「あなたの探しているものはここにあります！」と発信する場所だと考えています。30年以上前に子どもの農村体験のための農場としてはじまった白州郷牧場。「白州 ガーデン・ポタジェ」を、牧場の理念に基づいて長年取り組んで来たことを凝縮した場所にしていけたら…という思いがあります。子どもが裸足でかけまわれる農薬を使わない畑、安全で美味しい卵のために鶏の健康を第一に考えた平飼い養鶏、有畜複合とBMWで資源を循環させ、流域を汚さない農業のあり方…どうやって“わかりやすく”伝えるか…ブランディングは効果が出るまで時間のかかる広報活動ですが、ライフワークだと思って関わらせていただいています。

最後まで不安だらけでしたが、一期目を終えることができました。礒田氏には監修・設計という立場以上のお力添えをいただきました。忙しい中、関わってくださったすべての方々、本当にありがとうございました。(織田 淳子)



咲き始めたばかりの百日草の花。どの花にもバットの赤ちゃんが一匹ずつ乗っかっていました。なんで？



落花生～読んで字のごとく花が地面に落ちて土に潜り込み地中にピーナッツがたくさん！



ポタジェで育てたほうき草でほうきをつくりました。ほうき草が元気よすぎで…魔女のほうきになりました。

新産卵箱

大雪の被害で潰れた鶏舎も再建して、新しい鶏舎に鶏が入ってきました。タマゴを産み始めた鶏舎もあり、毎日採卵しています。一鶏舎だいたい30分くらい採卵時間がかかっていました。採卵もスタッフだけでなくパートさんも入り始め、みんながタマゴを採りやすい場所と高さに変える作業をしています。場所は鶏が集中して集まる所に幾つか置いたり、高さは人が採りやすい高さに、鶏が産卵箱に入れるようにとまり木を設置したりと、鶏が住みやすい鶏舎、人が採卵しやすい産卵箱の設置をしています。

(阿部 孝)



卵が最も滋養に富む“寒の卵”の時期となりました。 たくさん食べてみてください！

小寒(1月6日)から節分(2月3日)までの「寒」の期間に産まれた卵は「寒の卵」と呼ばれ、食することで1年を無病息災で過ごせると言うぐらい、滋養に富むよい卵だそうです。映画「火垂るの墓」で、「滋養なんてどこにあるんですか？」という台詞がありましたが、栄養価の高い安全な卵はここにありますが！今はよい時代ですね。

白州だよりが皆さんのお手元に届く頃にはすでに寒の時期を過ぎていますが、まだまだ続く厳しい寒さの中、鶏たちは新しい鶏舎でのびのび元気にたくさんの卵を産んでくれています。

卵のご注文はホームページやお電話で承っております！

・平飼い玉子20個パック 1,200円

・平飼い玉子30個パック 1,800円

・平飼い玉子60個パック 3,600円

※すべて税込・送料別

鶏舎の中で写真を撮ると、おびえるどころか、みんなで寄って来て、つってきます。人を怖がらない好奇心旺盛で元気な鶏たちです。



お電話もしくは
ホームページ内オンラインショップから
お問い合わせいただけます！

Tel.0551-35-4445 www.hakusyu.jp/onlineshop.php

新入社員が入りました

昨年二人の若者を迎えました。生まれも育ちも白州町、地元出身の二人です。向井さんはバックセンターに初期より長年つとめてくださいました武子さんがおばあちゃんです。大輪さんは向井さんとは幼馴染。地元に関わりたいたと、一度東京で就職した後白州に戻り、門を叩いてくれました。23歳。若さとパワーにみなぎっています。白州が好きで、過疎が進む地元を何とかしたいという二人。先日のもちつきフェアでも手馴れた手つきで活躍してくれました。

(高草木 里香)

よろしくお願いいたします！

昨年の7月からお世話になっている向井です。生まれも育ちもここ白州横手で、お店まで毎日歩いて通っています。

私は栄養士の専門学校を出て2年間東京で働いていましたが、元々生まれ育った山梨が大好きだったこともあり、やはり地元に携わった仕事がしたいと思いこの会社に入りました。

いまは地元の温かいひとたちと充実した仕事ができ、毎日が勉強です。これからもここでいろいろなことを経験し、楽しんで仕事したいと思います。

(向井 美咲)※写真右

昨年11月よりお世話になっております大輪です。ここは向井さんの紹介で知りました。それまでは東京で老



人ホームの栄養士として働いていましたが、職場環境が1日地下室ということもあり、体調を崩して、地元の白州に帰ってきました。

東京では美味しくないと野菜により一時期野菜嫌いになりましたが、白州郷牧場に勤めてからは、毎日美味しいお野菜にかこまれ自然と野菜嫌いも直りました。

これからも太陽をたくさん浴びてお野菜と共に仕事をしたいです。

(大輪 ひとみ)※写真左



農業研修生募集中！

日本有数の名水、南アルプスの山々、移り変わる四季の美しさ… BMW循環型の農業、野菜の栽培、平飼い養鶏、生産から出荷、販売まで多岐にわたり経験できます。

下記、白州郷牧場ホームページにて、活動内容や応募方法などの詳細をご確認の上、メールにてご応募、またはお問い合わせください。

募集内容の詳細はコチラ

<http://www.hakusyu.jp/saiyou.php>